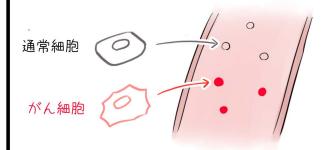


また、治療の効果は短期間で

CTスキャン以外の方法として、 がん細胞が作る「腫瘍マーカー」を 血液から探し出す方法があります



採血のみで身体の負担は少なく、 繰り返し検査できます しかし従来の腫瘍マーカーは 陽性を陰性と判断することも多く、 正確な腫瘍量判定には不向きです

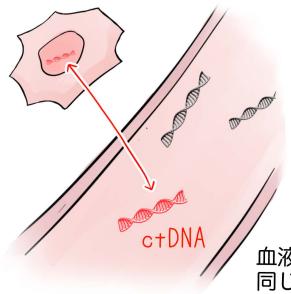
あまり効果のない治療を 続けているうちに 体力が低下してしまい、

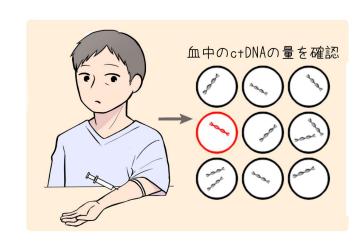
次の治療が受けられない ということもあります

そのため身体に負担が少なく 正確に判定ができる 検査が望まれています

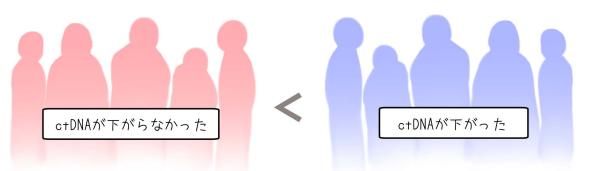


OTS-アッセイでは、血液中にあるがん細胞特有のDNA(=ctDNA)を測定して判定を行います

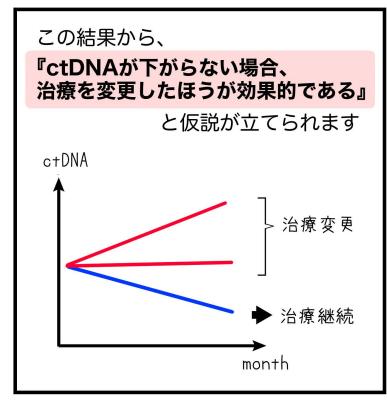




血液検査という点では腫瘍マーカーと 同じですが、より正確な判定が可能です 岩手医科大学で行われた食道がんを対象とした研究では、



治療後にctDNAが下がる患者さんは、 下がらない患者さんと比べ長く生きることが示されました。



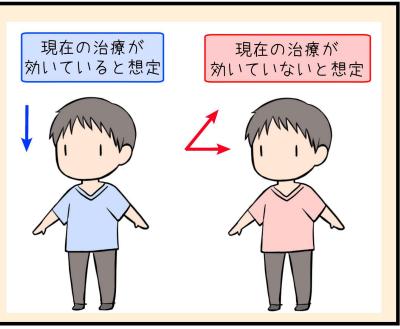


従来の治療との比較を行います

ご参加いただく患者さんは、 まず従来通りの治療を 受けていただきます

治療経過とともに ctDNAを測定して、

「**下がるグループ**」と 「**下がらないグループ**」 に分けていきます



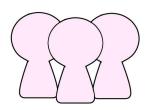
治療効果ありと考えられる「下がるグループ」では、従来の治療を継続します

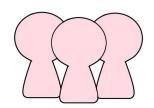
「下がらないグループ」は

「従来治療を継続」と「治療を変更」の 2グループにランダムに分けます

治療効果なしとみなし変更

治療効果なしと 断定できないため継続





治療効果と患者さんの様子を観察します

「<mark>従来治療でctDNAが下がらない</mark>」 かつ「治療を変更したグループ」で 治療効果の改善が得られれば

今後ctDNAの変化に基づいて 治療方針を検討する 強い根拠になります

